

第36回宝塚市病院事業運営審議会会議録

- 1 開催日時 平成23年3月18日(木) 午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 宝塚市立病院 講堂1(北棟3階)
- 3 出席委員(敬称略) 9名
医療機関代表者 末岡 悟、渡辺 武、村上史恵
公共的団体代表者 豊川花子(副会長)、田村明美
知識経験者選出 佐々木 弘(会長)
一般公募 三林保子、白上 淳、榊原 裕
欠席委員(敬称略) 5名
医療機関代表者 野川 博
公共的団体代表者 村田キヨ子
知識経験者選出 飯島尋子、成田康子
関係行政機関選出 増田宗義

※ 委員14名の内、出席者9名で過半数を超えており、審議会規則第6条第2項の規定により本会は成立

4 議事前段階概要

①事務局から本日の資料確認(篠倉部長)

本日配布している「宝塚市立病院改革プラン-平成21年度実施状況」については前回の審議会でご審議いただいた内容に佐々木会長のご指示により経営統括部で内容を整理し最終、佐々木会長から了承を得た成果です。次年度以降は今回の様式で最終報告を行う予定です。

②妙中病院事業管理者あいさつ

- 1 市立病院では22年度は医師数が増加し、患者数の徐々に増加し収入も改善してきた。今年度は設備投資を行い各センターが開設し診療体制の整備ができてきた。後ほど、各議題について審議をよろしく願います。

2 東北関東大震災について

3月11日地震発生後、兵庫県広域災害システムに受け入れ患者6名の重症から軽症の程度別に分け報告した。また透析患者の受け入れについても外来15名、入院患者数名の受け入れを行う。各都道府県のDMAT(災害派遣医療チーム)

も第1陣、2陣が現地へ入った。当院は本日9時に医師2名を含む医療チーム6名で宮城県庁の指示により、南三陸町の支援に行く。

当院は災害拠点病院であるため、兵庫県医療班の派遣を4泊5日で行う協力依頼もあり、先発隊の状況を見ながら対応していきたい。

5 議事概要

(1) 平成23年度当初予算について

資料に沿って酒井病院副事業管理者より説明

(2) 平成22年度業務実績の報告

市立病院職員定数の改正に関する資料

篠倉経営統括部長・酒井病院副事業管理者により説明

(3) 病院機能評価受審結果について

辻課長より説明

(審議概要)

委員 患者数も伸び、改革プランの状況についても順次実施されている。定数枠の改正について何か質問はないか？

委員 心臓血管外科医の数について確保されていないようだが現状について聞きたい。

事務局 心臓血管外科医の定数としては3名必要と考えており、現在の所、1名のみしか確保出来ていない。婦人科についても5名の医師が必要と考えているが、医師の絶対人数が大学でも不足しており、関連大学とも協議しながら、今後検討していきたい。

委員 大規模工事の実施計画で熱源の工事が行われるようだが、今回のような大震災が発生した場合、対応はどうなるのか？

事務局 耐用年数もきており、停電時のバックアップ体制をとれるよう効率的な方法を取るよう計画をたてている。現在は関西電力より2系統の本線を引き入れたものと、重油による自家発電とガスによるコージェネレーションシステムがある。

委員 何日ぐらい持つのか？重油については業者契約しているのか？

事務局 バックアップはあくまで緊急時の対応であるので重油が供給できる1～2日程度で、その間に次の対策をとる必要がある。特に契約はしていないが、公的な施設であるので、ある程度の優先はあると考える。

- 委員 平成22年度業務実績に関して科別に分析されており、診療科により差があるが各科の医師には認識、周知はされているのか？
- 事務局 毎月このデータは作成されており、直接、科別に指摘することはないが毎月開催される各科代表が出席する病院事業改善会議で報告しているので、認識はある。また4月には各科代表者に対し、院長がヒアリングを行い、その協議の場で直接説明している。
- 委員 一般の会社では成果主義で評価される。外来診察で患者の顔も見ないでパソコンばかりみている医師がいるが医師レベルの見極めのような事は行っているのか？
- 事務局 医師不足で医師の採用を重点的に行ってきたが今後は質の評価を行うことは重要な課題と認識しています。評判の悪い医師には投書もあり、集約される感があるがその半面感謝の手紙もある。ボーナスへの反映も実施している病院もあるが公立病院ではむづかしい。夜間当直についてはそれに見合う手当をつけている。
- 事務局 人事評価については所属長がつけており、昇格に関しては院長判断で実施している。
- 事務局 医師以外でも看護師などで感謝の投書があり評価はおこなっている。
- 委員 表彰等はおこなっているのか？
- 事務局 表彰はおこなっていない。
- 委員 社会福祉協議会ではヘルパーに対し、頑張った場合、評価を行っている。人事効果については毎年かわるのでジェネラルマネージャーのみに頼る評価は良くない。
- 委員 人件費が突出しているがなぜか？公務員であるため機械的な昇給が行われているのではないか。また下がることもあるのか？
- 事務局 人件費は確かに11%伸び4月から定数増と毎年の定期昇給が1%あることは事実である。ボーナス評価も市として制度があるが差がなく今後の課題である。
- 事務局 医師の給与を下げることは出来ない。できるとすれば問題のある医師は辞めさせる事ぐらいである。市議会の方からは人手不足解消のための医師、看護師の待遇改善を求める質問がある。7対1看護確保のため収益面においても看護師の確保も必要であり、事実、雇用条件が悪ければ人が集まらない現実がある。人員は確保し、収益を増加させることを検討する必要がある。
- 委員 病院機能評価について病院の評価について誰が行い、会社などが行う評価とは違うのか？
- 事務局 医師が委員長となり医師、看護師、薬剤師、技師を初めとするコメディカル、事務などで構成する委員会を設置し、そのメンバーで評価する。会社などの

経営、改善を自社で行うのではなく、評価機構が設定した、病院に必要な全ての機能を第三者機関が評価し改善項目をクリアすることにより、病院の質を高めるものである。

委員 認定を受けることのメリットは？

事務局 認定についてはホームページにも掲載し、患者様が病院を選択する時の基準の1つとしての判断材料となる。現在の所、実質面ではないが診療報酬への反映も一部検討されている

委員 宝塚市立病院は災害発生時の評価はバージョン5でも評価されており、南は兵庫医大、北阪神地区では宝塚市立病院は災害拠点病院となっているのでDMATの編成も検討してもらいたい。

事務局 現段階ではDMATは人員的に厳しい面が多いが今後は検討する必要がある。

委員 DMATとは？

事務局 災害医療派遣チームの略で医師、看護師、業務調整員（救急救命士、薬剤師、事務など）等で構成される医療チームで大規模災害時の急性期に活動し、兵庫医大はドクターヘリを利用し派遣された。

委員 病院機能評価で評価2とCがついているもので項目4.3.3と項目5.4.2と異なる項目になるが内容がほぼ同じになっている事についての詳細な説明を求める。

事務局 これは抗癌剤の調整が適切な環境下で行われていないとの改善要請があったもので、通常は全ての抗がん剤は薬剤部で調整しているのだが一部の病棟で、土日に施行するものが指摘病棟の不適切な環境下でおこなわれていた。項目4.3.3は薬剤部での指摘で項目5.4.2は病棟での指摘である。同様の内容で病棟と薬剤部の協議により、マニュアル、業務手順の見直し改善を行い評価機構より再評価認定を受けたものである。

委員 今回の震災で昨日のTVで宝塚市の行政の対応が遅いと報道があったが。

事務局 震災発生後、3月11日（金）の23時に救急消防援助隊が被災地に向かって出発し、3月14日には水道局より給水車が出発し、市長を本部長とする宝塚市東北関東大震災支援本部が設置されました。市職員のボランティアも市長命令で募り派遣をおこなっています。病院も本日、医療チームを派遣し、市全体としては対応しています。